

試験研究活動情勢報告（令和元年 11 月分）

【果樹試験場】

ユズ栽培「匠の技」を可視化する



データ採取の様子

高知県はユズの日本一の産地ですが、高齢者が多く、産地の維持のためには新規参入者の確保が課題となっています。そこで、果樹試験場では新規参入者に早期の技術修得を可能とするために、熟練者の行う作業の可視化を行っています。

写真は「視線」を測定することのできる機器を被験者に取付け、選果作業を行っているところで、手前のPCに被験者の視点が映っています。熟練者と非熟練者の相違点を調査することで、新規参入の障害となる技術の壁を低くできるよう調査を続けます。

ユズの出荷予測精度向上に向けて



ユズ選果場での撮影

ユズは冬至の一時期に多くの需要があり、その販売には多くの顧客を抱える量販店の協力が欠かせません。そのため、産地から事前に計画的な仕入れ販売に必要な出荷量や品質等の情報を提供していますが、その情報精度は高くありません。

そこで果樹試験場ではユズ園からの写真撮影や個数カウント、品質調査等をおこない、精度向上のための基礎データの収集をはじめました。これらのデータと画像処理技術やデータ活用技術を併せ、より高精度な出荷予測を可能したいと考えています。